

Ⅱ 平成20年に旧事務所を閉鎖した後の状況の変化

1 本格的な人口減少社会の到来

- 我が国の人口は、平成20年をピークに減少に転じており、旧事務所を閉鎖した後、国内市場の縮小がはじまっている。

【北海道人口の推計】

(単位：千人、%)

年	H22	H27	H32	H37	H42	H47	H52
人口	5,506	5,361	5,178	4,960	4,719	4,462	4,190
割合	100	97.4	94.0	90.1	85.7	81.0	76.1
(参)国	100	98.9	96.9	94.2	91.1	87.6	83.8

出所：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

【道内からの海外進出企業数】

- こうした中、海外市場に目を向ける企業、とりわけ成長著しい ASEAN 市場の開拓に取り組む企業が増加している。

地域	H21	H22	H24	H25	H26
ASEAN	22	26	27	27	53
その他アジア	126	121	113	83	153
アジア以外	37	46	36	27	54
計	185	193	176	137	260

注1：H21～H25はJETRO調査による

H26は、JETRO調査に経産省調査及び道が独自に把握した情報を加えたもの

注2：H20、H23はデータなし

2 成長を続けるASEAN市場

- 名目GDPでは、旧事務所を閉鎖した平成20年から平成26年までの間に約7割増加し、日本の半分以上を越える規模にまで拡大している。

出所：外務省資料、JETRO資料、SNA
(国民経済計算マニュアル)及びIMF
推計

【GDPの推移】 (単位：10億USドル)

国	H20	H26	伸び
シンガポール	190	308	162%
タイ	273	374	137%
マレーシア	192	327	171%
インドネシア	510	889	174%
フィリピン	174	285	164%
ベトナム	91	188	206%
その他ASEAN	65	106	164%
ASEAN計	1,494	2,476	166%
(参考)日本	4,849	4,616	95%

【一人当たりGDPの推移】 (単位：10億USドル)

- 国民の所得水準を表す名目一人当たりGDPは、主要各国とも3割から8割増加している。
- 各国とも首都圏においては、さらに高い水準であることが推定される。

出所：外務省資料、JETRO資料、SNA
(国民経済計算マニュアル)及びIMF
推計

国	H20	H26	伸び
シンガポール	39,327	56,284	143%
タイ	4,110	5,445	133%
マレーシア	8,372	10,804	129%
インドネシア	2,210	3,534	160%
フィリピン	1,918	2,865	149%
ベトナム	1,154	2,073	180%
(参考)日本	37,865	36,332	96%

- ASEAN への北海道からの輸出額は、平成 20 年から 26 年までの間に約 3 割増加しており、特に食品輸出額は、約 7 倍にまで急増している。

【北海道からの輸出額の推移】 (単位：百万円)

	輸出総額			うち食品輸出額		
	H20 年	H26 年	伸び	H20 年	H26 年	伸び
シンガポール	8,711	5,767	66%	226	763	338%
タイ	18,937	20,259	107%	1,023	1,590	156%
マレーシア	10,152	11,267	111%	29	230	800%
インドネシア	7,206	8,795	122%	50	65	128%
ベトナム	7,293	17,427	239%	399	8,843	2,218%
その他 ASEAN	2,966	8,725	294%	32	226	707%
ASEAN 計	55,325	72,240	131%	1,758	11,716	666%

出所：函館税関資料を元に算出

- ASEAN からの来道者数は、平成 20 年度から 26 年度までの間に、シンガポールからの来道者数はやや減少しているが、マレーシアやタイからの来道者数は急増している。来道者数の統計のないインドネシアなど 3 か国についても、訪日旅行者数が急増していることから、来道者数も増加していることが推測できる。

【来道外国人の推移】 (単位：人)

国	H20 年	H26 年	伸び
シンガポール	45,300	40,900	90%
タイ	3,800	128,300	3,376%
マレーシア	10,300	49,300	479%
3 国合計	59,400	218,500	368%

出所：道観光局資料

注：道公表資料は年度ベース

【訪日外国人の推移】 (単位：人)

国	H20 年	H26 年	伸び
シンガポール	167,894	227,962	136%
タイ	191,881	657,570	343%
マレーシア	105,663	249,521	236%
インドネシア	66,593	158,739	238%
フィリピン	82,177	184,204	224%
ベトナム	34,794	124,266	357%
6 国合計	649,002	1,602,262	247%

出所：日本政府観光局 (JNTO) 資料

- 今後、平成 32 年までに、主要各国の富裕層、中間層は倍増して、約 4.4 億人となる見込みであり、道産食品の輸出、インバウンドの両面から、さらなる拡大が期待できるとともに、これらの富裕層等が多数訪れるシンガポールは、ASEAN のショーケースとしての役割を益々発揮することが期待される。

【中間・富裕層の推計】 (単位：千人)

国	H21			H32 予測		
	富裕層	中間層	計	富裕層	中間層	計
シンガポール	3,744	1,239	4,983	4,441	1,070	5,511
タイ	2,007	39,551	41,558	7,275	49,497	56,772
マレーシア	7,081	18,825	25,906	21,251	10,904	32,155
インドネシア	2,530	82,327	84,857	14,745	202,612	217,357
フィリピン	1,382	37,316	38,698	4,151	68,885	73,036
ベトナム	604	16,824	17,428	2,726	55,843	58,569
6 国合計	17,348	196,082	213,430	54,589	388,811	443,300

出所：JETRO 資料 (シンガポール以外)、シンガポールは農林水産省関係資料を元に算出

※ H20 年はデータなし

3 その他（新たなビジネスチャンス）

- 現地のフード特区機構アドバイザーからの情報等によると、近年、ラーメン店などの飲食店、スイーツ店舗等の現地進出が進んでいるほか、道内からの進出企業以外の寿司店、和食店などにおいても、品質の高い北海道の食材を使用している店舗も増えてきており、和食人気の高まりなどを背景として、道産食材の輸出拡大が期待できる状況となっている。
- 所得水準が上昇し、海外旅行が一般化してきた地域では、より満足度の高い特別なこだわりを持った旅行へのニーズが高まっていることから、S I T（スポーツ観戦、サイクリング、トレッキング、スケッチ旅行など特別な目的を持ったツアー）、企業のインセンティブツアーなど、新たな分野での可能性が高まっている。